



一力を合わせて地球を救えー
地球よろこ部、新入部員募集中！



Nagasaki Global Junior Innovators (真未来塾)

齋藤 優輝 : 表紙、アンケート分析、課題、提案、まとめ、全体構成

浦川 凜 : 現状調査、工作

久松 己哲 : はじめに、取材(九州電力)、工作

緑川 麻亜玲: 取材(長崎市上下水道局)、工作

はじめに

僕の先輩のゆうきくん（高校2年生）は、これまで環境問題に対して、ワークショップを開催したり、コンクールなどでその活動報告をしたりしてきている。その活動は全国放送され、地元の新聞に掲載され、書籍にも取り上げられている。

そんな中、ゆうきくんから環境活動を受け継いでほしいと話があった。環境問題に取り組んでいる人たちはすごいと思うけど、なんだか特別に感じた。そもそも節水や節電は本当に効果があるのか不思議に思った。

そこで、4人で話し合いをした。地域清掃や海岸清掃などの環境保護活動に参加したことがある人もない人もいた。参加したことがないメンバーも参加したいと思っている。そこでどんな取り組みがあるのかを調べてみることにした。

現状調査

環境問題の中でも大気汚染について、どのような環境活動をしているのか調べました。

日本では、大気汚染を工場や発電所などの固定発生源と乗用車やバスなどの移動発生源に分けて、それぞれ規制をしています。ここでは主要な対策として下記の3つを紹介します。

【①大気汚染防止法】

国民の健康と生活環境を大気汚染から守ることを目的に、1968年に制定された法律で、固定発生源（工場や事業場）から排出又は飛散する大気汚染物質について、物質の種類ごと、施設の種類・規模ごとに排出基準等が定められています。工場や事業所の経営者など、大気汚染物質の排出者等はこの基準を守らなければならないとされています。

【②自動車NO_x・PM法】

自動車の排出ガスから出る窒素酸化物（NO_x）、粒子状物質（PM）を規制する法律です。運輸や旅行業界の事業者に適用されます。

【③EST（環境的に持続可能な交通）

ESTとは、環境負荷の少ない交通のことです。取り組みとしては大まかに以下の3つに分けられます。

- ・運輸で排出される大気汚染物質を減らす。
- ・地球温暖化を止めるために、温室効果ガスの排出を長期的、継続的に減らす。
- ・過度に依存しない事業活動、生活様式を推進する。

国や企業、日本または世界の取り組みは全く知らない法律をいくつか知ることができた。たくさん国や地球のことを考えているなと思いました。しかし、私達が取り組みそうなことはほとんどありませんでした。国の法律や規制にきちんと取り組みたい。と思っていても大人の人しか活用できませんでした。また、このような法律や規制に参加したり、経験したりすることができないので私達が考えるより良い方法が提案できません。自然環境はみんなにとって重要なものであるのに、そのための取り組みは一部の人だけのものになっているのではないのでしょうか。

それって本当に環境にイイの？

「環境問題への取り組みは一部の人だけのものになっている？」

「子どもの私たちには、取り組めることはあまりないの？」

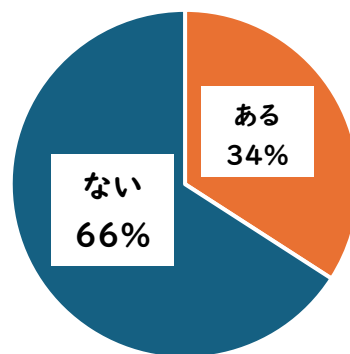


アンケート調査

【グラフ1】環境保護活動に参加したことがあるか

環境保護活動は一部の人だけのものになっているのか。

私たちは、長崎市内の小中高校生129人にアンケート調査を実施した。アンケート調査では、環境保護活動に参加したことがあると答えた人は全体の3分の1ほどで、大部分の人が環境保護活動に参加したことがないことがわかった。(グラフ1)

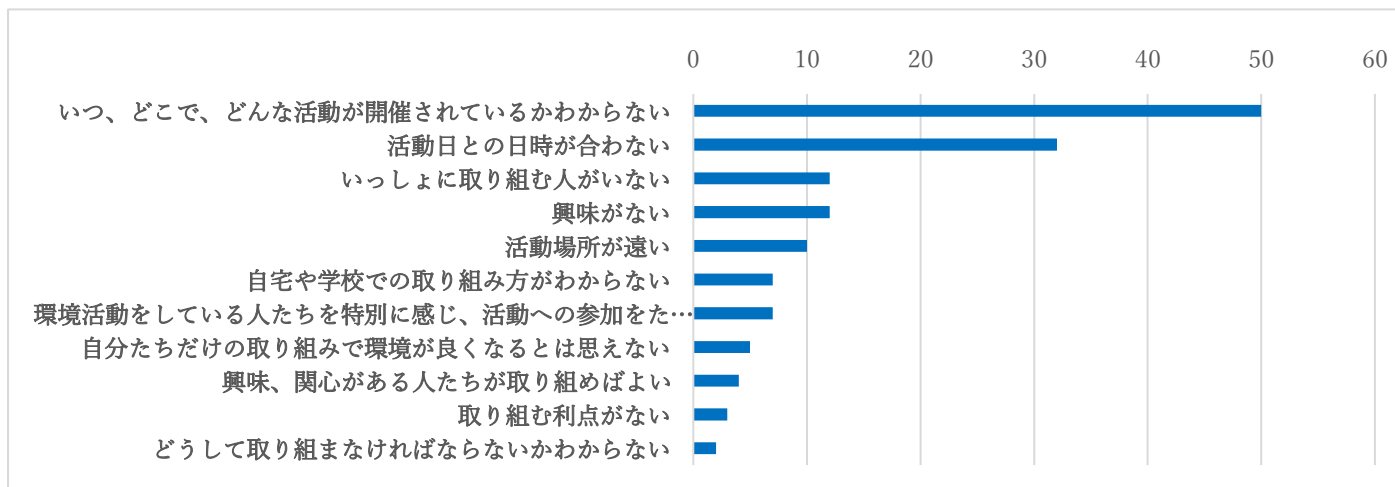


環境保護活動に参加したことがない理由としては(グラフ2)、「いつ、どこで、どんな活動が開催されているかわからない」が圧倒的に多く、環境保護活動についての情報が広まっていないことがわかった。また、たとえその情報が得られたとしても、「活動日との日時が合わない」「活動場所が遠い」など、都合が合わないという理由で参加できないことが多いこともわかった。

次に気になった点としては「いっしょに取り組む人がいない」「環境活動をしている人たちを特別に感じ、活動への参加をためらってしまう」「自分たちだけの取り組みで環境が良くなるとは思えない」などで、環境保護活動にはいっしょに取り組む仲間が必要だと感じている人が多いようである。

私たちが一番注目したのは「興味がない」という回答だ。その理由として「興味、関心がある人たちが取り組めばよい」「取り組む利点がない」「どうして取り組まなければならないかわからない」などが関連していると思われる。

【グラフ2】環境保護活動に参加したことがない理由



私たちは「環境保護活動に参加することは当然のことだ」と考えていた。もし「どうして取り組まなければならないのか」「取り組んだら、どんな良いことがあるのか」「本当にその活動に効果があるのか」と尋ねられたら、相手を納得させられるだけの答えを出せる自信はない。なぜ私たちは「環境保護活動に参加することは当然だ」と考えるようになったのか。私たちは、それが環境に良いと聞いて(しかし、いつ、どこで、誰から聞いたかはわからない)、そのことに実際効果があるのか、意味があるのかなど一切考えることなく、言われた通りに取り組んできたように思う。やはり、環境保護活動に取り組む意味や効果について理解し、納得できないと、取り組む意欲もわかないし、取り組みも継続できないのではないかなと思う。

それって本当に環境にイイの？

「環境保護活動はその場に行かないと、取り組めないものなの？」

「環境保護活動の意味や効果って、知らされているの？」



取材－九州電力

私たちはアンケートから環境保護活動に取り組む意味や効果はあるのか、あるとしたらどんな効果があるのかと考えてわからなかったから取材に行くことにした。

【節電には効果がある!】

九州電力長崎支店を訪れた。お話を聞いたのは、企画・総務部の原口さんと廣田さんだ。環境問題の解決方法として節電は効果がある。地球温暖化はCO₂が増加して引き起こされた現象であり、エアコンの温度を夏場は2℃高く、冬場は2℃低くすると、年間約40kg削減することができ、照明をLEDに変更すると年間約60kg削減することができる。

電力会社として節電は有効と考えていて、市民に節電をしてほしいと考えている。節電をしてもらうと、使用する電力が減り、火力発電などで排出されるCO₂を減らすことができる。

発電量は使われる量とつくる量を予測している。使われる量は天気や気温、つくる量は30分単位で微調節しながらついている。



【九州電力の環境への取り組み】

九州電力では2050年のカーボンニュートラル達成のため、再生可能エネルギーを利用している。また長崎県諫早市にある「いさはや九電みらいの森」など、地元自治体と連携しながら植林・育林事業なども進め、年間CO₂排出量を約半分減らすことができた。会社では涼しい服装で作業をしてもらうために、半袖のTシャツをつくり、エアコンをあまり使わないようにしている。社内には節電を呼びかけるポスターをつくったりして、楽しく環境活動に取り組んでいる。



廣田さん(九州電力)

【おすすめの節電方法は?】

家庭でのおすすめの節電方法は、エアコンを1℃調節、照明をLEDに変更、冷蔵庫の設定を中にする、使わないコンセントを抜く、照明をこまめに消すなどが挙げられたが、どれも無理に行うのではなく、楽しく行ってほしいと話していた。



Tシャツには九州電力のロゴもなく、いつでもどこでも着られるステキなデザインのTシャツで、僕たちも着たいと思えるものだった。(背面には長崎県の地図と九州電力の場所が★で示されている)

それって本当に環境にイイの？

「まじめに取り組むだけでいいの？楽しいほうが続けやすい？」

「毎日たくさんの資源を利用しているという意識を持てている？」



取材—長崎市上下水道局

【節水には効果がある!】

お話を伺ったのは、総務課の吉田さん他、水道局のみなさんだ。水道から出る水の多くはダムから家庭に送られているが、家庭に水を送るためには電気が必要になる。だから、節水することで送る電気を削減できるから、電気をつくる時に排出されるCO₂を減らせるので、節水は効果があると言う。また、私たちが使った汚い水をきれいにするためにも電気を使うので、節水によって汚い水そのものが減るときれいにするための電気が減って、電気をつくる時に排出されるCO₂の量も減るので、節水には効果があると話していた。



長崎市上下水道局のみなさんと(長崎市役所)

【長崎市上下水道局では節水を呼びかけていない?!】

しかし、長崎市上下水道局では節水を呼びかけていなかった。節水は効果があるのになぜ呼びかけないのかという問いに対して、松尾さんは「節水よりも利用者さまの健康の方が優先だと考えています」と話していた。

日本の水道法第1条には「清浄にして豊富低廉な水の供給を図り、公衆衛生の向上と生活環境の改善とに寄与すること」と記されているように、節水よりも利用者の健康と安全を優先に考えることが大切とされているらしい。つまり、節水のために無理して、お風呂に入らなかったり、トイレをしなかったり、歯みがきをしなかったり、手洗いをしないというわけではなく、生活や健康のために、お風呂、トイレ、歯みがき、手洗いはするけれど、ムダに使いすぎない、必要な量の水を使用することが大切だという。

長崎市上下水道局によると、ムダに使い過ぎない、必要な量の水を使用する身近な節水方法の例として、トイレの洗浄水をエコボタンで少なくしたり、食洗機を使用して水の使用量を減らしたりすることなどを教えてくださった。

お話を聞くまでは、節水は環境に良いとしか考えていなかった。利用者の健康や安全を考えると、節水のしすぎは良くなく、生活面でも健康面でも困ることがあるので、必要な量を使い、ムダに使いすぎないことが大切だとわかった。



「長崎の水、みんなでたくさん使ってね！」
松尾さんは「市民の健康と安全が優先」と過度な取組みへの注意を促してくれた。

取材を通して

九州電力、長崎市上下水道局での取材を通して、節水や節電は環境のために効果があるが、あまりにも節水・節電を意識して、公衆衛生や生活環境の安定を妨害してしまうような過度な取組みは必要ないことがわかった。

1つの課題を改善しようとして、その結果、他の課題を悪化させてしまう——「トレードオフ」は、人が何かを行う時には、その傍らに常に存在している。現在の地球環境を改善するためには、何か一つの問題を集中的に取り組めばいいといったような単純な考えで改善することなど不可能だ。今私たちは、トレードオフの考えを念頭に置いて、それを意識しつつ、いかにトレードオフを解決し、その上でどのように目標を達成できるかという取り組みを求められている。

しかし、「トレードオフを考えながら行動しろ」などと言われると、面倒に感じ、取り組みなくなるだろう。私たちは、節水や節電に具体的にどのような効果があるかをしっかりと伝え、取り組んでもらう人たちに節水や節電をする意義を感じてもらえるような取り組みを考えなければならない。

それって本当に環境にイイの？

「自然環境のことだけを考えて、環境活動に取り組んでいいの？」

「私たちの健康や安全と自然環境、どちらがより大切ってあるの？」



お母さんたちの声

今回、メンバーで集まってテーマについて話し合っていると、私たちを迎えに来たお母さんたちの声が聞こえてきた。

肉や魚が入っていたプラスチック製の食用品トレイは、スーパーマーケットの入り口で回収されている。また、長崎市の場合、市が指定する「プラスチック製品容器包装」のごみ袋に入れ、指定日にゴミステーションに出すことになっている。リサイクルの対象となっているプラスチックトレイだが、「汚れている場合は軽く水洗いするか、ふきとる」必要があり、「汚れが落ちない場合は燃やせるごみへ」出さなければならない。汚れたまま持って行っても、廃棄されてしまうだけなのである。

どちらの取り組みが正解なのかしら？

【リサイクルに出すお母さん】

「燃やすと CO₂ が出ると聞くから、私はスーパーのリサイクル BOX に持っていくわ!」
「洗うのも手間だし、持っていくのも手間だけど、地球環境を良くするためには手間がかかるのは仕方ないことよ!それに習慣にしまえば、あまり手間がかかるとは感じないわ!」



【ごみとして捨てるお母さん】

「軽く水洗いをするだけでは臭いが出る。だから、きれいにするために洗剤も使うし水もたくさん使う。それなら捨てた方がエコなんじゃない?」
「スーパーまでいちいちトレイを持っていくのはとても手間。洗うのも手間。」
「ゴミ処理場も良くなっていて、CO₂ をあまり排出しないって聞いたわ!」

どちらが環境にとってより良い取り組み、悪い取り組みなどと一概に言い切ることはできない。リサイクルするとなるとトレイをきれいにするために水を使う。捨てるとなると燃やす際に CO₂ が出てしまう。たとえ環境にとって良い取り組みだとしても、手間や時間がかかってしまうものは取り組むのにはハードルが高く、それについてどう感じるかも人によって異なる。自治体によってゴミの分別や処分のルールも異なっているので、一概に捨てるのが悪いともいいとも言い切れない。

また、自分は環境に良いと思って一生懸命に取り組んでいるのに、周囲から「そのやり方は間違っている」「もっと効率的なやり方がある」などと言われてしまうと、頑張っているのにやる気をなくしてしまう。

お母さんたちの会話からは、そのようなことが感じられた。

それって本当に環境にイイの？

「頑張って取り組んでいることに、良いとか悪いとかあるの？」

「時や場所、その人の状況によって、取り組みやすさは異なる？」

「まずは取り組んでもらうことが重要なんじゃないかな？」



見えてきた問題点と取り組むべき課題

私たちはアンケートや取材などの調査に取り組む中で、いくつかの問題点に気づいた。

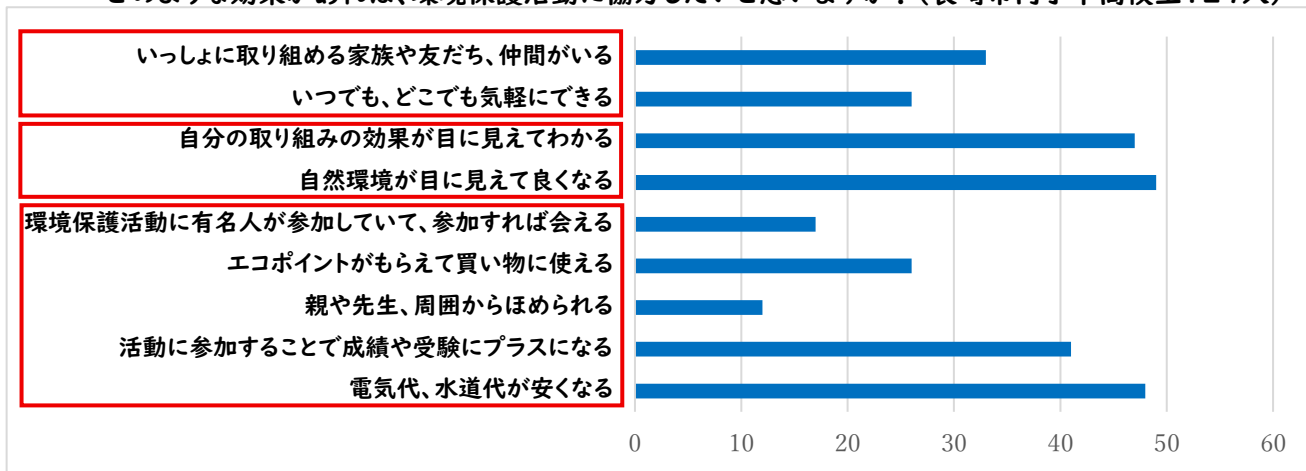
この問題点を踏まえ、どうしたら環境問題に興味のない人に興味を持ってもらったり、長期的に活動が続けてもらったり、時間や場所などの制約に阻害されことなく環境問題に取り組んだり、解決したりすることができると話し合いを進めた。しかし、答えを見つけることはできなかった。すべての環境問題を解決できる万能な解決策など存在しない。ありとあらゆる環境問題がある今、それら一つ一つに対応する解決策を提示していたらきりが無い。また、国や地域によって、文化や法律、考え方や価値観も大きく異なり、たとえ同じ地域の人たちであってもそれらは異なるため、環境問題への取り組みについて何を基準に、より良い方法と言えるのかは難しい。そこで私たちは、取り組むべき課題を次の4点にまとめた。

- 【1】環境問題や環境保護活動への参加は、限られた地域や一部の人だけの取り組みになりがちである。
- 【2】環境問題の深刻さや環境保護活動をする意味や効果がわからないため、取り組みが広がっていない。
- 【3】環境保護のための過度な取り組みは、公衆衛生や生活環境の維持を妨げる可能性があり、楽しくないために続かないし、そもそも取り組もうと思えない。
- 【4】より良い取り組みや効率的な解決策という考え方が、取り組もうとする気持ちをなくさせる可能性がある。

解決策

私たちは課題について話し合い、その場所、その時、その人、その状況に適するような、臨機応変な取り組みはないかと考えた。また、アンケート調査を行って「どのような効果があれば、環境保護活動に協力したいと思うか」と尋ねた。

どのような効果があれば、環境保護活動に協力したいと思いますか？（長崎市内小中高校生129人）



アンケート調査の結果を分類して、3つのパターンに分かれていると考えた。そこで、私たちは、次の4点を踏まえた解決策を考え、提案することに決めた。



- ◆いつでも、どこでも、1人でも取り組める！
- ◆一部の人だけの取り組みにならない！
- ◆「取り組んでよかった！」と結果が目に見える、感じられる！
- ◆環境にも人間にも、どちらにもやさしい！



提案

何かに取り組み始めたり、継続したりするには、楽しくなければならぬ。そこで私たちは、解決策の3つのポイントを踏まえ、環境問題に興味がない人達に興味を持ってもらいつつ、時間をあまりかけずに毎日できて、長期的に活動を続けてもらうにはどうしたらよいかをチームで知恵を出し合って考えた。これが私たちの提案だ。

—力を合わせて地球を救え— 地球よろこ部、新入部員募集中！










































「地球よろこ部」は文字通り「未来の地球環境を守るために、地球が喜ぶ環境保護活動に取り組む」ことを目標としている。私たちは、その「地球よろこ部」の部員だ。まだ環境に興味がない人たちに、まずは「体験入部」をしてもらい、環境活動に興味をもった人から入部し、「地球よろこ部」として活動してもらおう。つまり、世界中どこであっても、未来の地球環境を守るため、小さくても何かしらのアクションを起こした人たちは「地球よろこ部」の一員であり、私たちはワンチームとして取り組むことができるのである。

「地球よろこ部 チャレンジリスト」








































このチャレンジリストは、環境保護のために、いつ、どこで、どんなチャレンジをしたらよいかを具体的に示したものだ。達成できるSDGsの番号もつけた。過度なものにならないように、取り組みやすさにもこだわった。

環境に興味がない人たちに、まずは体験入部で下記のチャレンジリストに挑戦してもらおう。体験入部では、主に、環境問題と私たちの生活がいかに密接に関係しているかを考えてもらうことが目的だ。そして、体験入部を通して環境活動に興味をもった人から「地球よろこ部」として活動してもらおう。「地球よろこ部」への入部後のチャレンジリストでは、初心者、中級者、上級者までは、自分1人でも取り組める内容になっている（次ページ）。さらにレベルが上がり、達人、仙人クラスになると、周囲に活動を広めるレベルである（次ページ）。


「地球よろこ部」入部前の体験リスト

	達成できる SDGs	チャレンジ項目
トイレ	     	災害が起きたとき、トイレがなかったらと考え ぞーっとしてみる
歯みがき	     	災害が起きたとき、歯みがきをした後 うがいの水がないときは？と考えてみる
手洗い	     	いかに少ない水量で効率的に手を洗うか イメージトレーニングをしてみる
食器洗い	    	自分が食べられる量はどれくらいかと 自分の胃袋と相談してみる
風呂 シャワー	     	災害が起きてシャワーが浴びられないとき どれくらい大変であるかを考えてみる
電気	      	地球にとっての適温と自分の適温を考え クーラーの設定温度について悩む
ゴミ捨て	    	買い物をするときに、これは本当に必要な 物であるのか、自分自身に問いかける

「地球よろこ部」入部後のチャレンジリスト

	達成できる SDGs	初心者	中級者	上級者
トイレ	     	朝いちばんにトイレに行った時、今日も水が使えることを地球に感謝をする。	安心してトイレが使えることに心から感謝し、トイレにありがとうと言ってみる。	トイレの大小レバーを使い分けたり、エコモードで水を流してみたりする。
歯みがき	     	1分間に水道から出る水は12リットル。自分はどれくらい使っているかを計ってみる。	コップ2杯でうがいする	コップ1杯でうがいする
手洗い	     	集中して水道を出し集中して水道を止める	こまめに水道を止める	石鹸をつける前に手を濡らし、水道を止めてから洗う。
食器洗い	    	残さずおいしく食べる	食べ終わったらすぐに食器を水につける	食べ終わった後の皿の汚れをふき取り、水につける
風呂 シャワー	     	きれいな水を使えることに感謝し、シャワーヘッドに挨拶する	シャワーをこまめに止める	シャワーを使う時間を10分以内にする
電気	      	冷暖房の設定温度を確認し、適温に設定する	こまめに電気を消す	近くなら自家用車を利用せず、徒歩か公共交通機関を利用する
ゴミ捨て	    	買おうとするものの捨て方がわかっているか確認する	ものを捨てるときに「ありがとう」と感謝して捨てる	スーパーで「おつとめ品」を購入し、すぐに使い切る

レジェンド部員のチャレンジリスト

	達成できる SDGs	達人	仙人
トイレ	      	周囲の人たちにトイレの大切さを伝える	寝る前にトイレに行ったとき、今日も水が使えることに感謝し、そっとドアを閉める
歯みがき	      	コップ1杯でうがいしながら、周囲の人たちにコップでのうがいを勧める	コップ1杯で鼻歌を歌いながらうがいをし、節水の楽しさを周囲に広める
手洗い	      	隣の人の水道も止めてあげる	水道パトロールをして、無駄に出ている水がないか確認し、出ていたらすぐに蛇口を閉める
食器洗い	     	ワンプレートに盛りつけるなど、使う皿の枚数を少なくする	食器はまとめて洗って、洗い桶を使ってまとめてすすぎ、自分の心まできれいにすすいでしまう
風呂 シャワー	      	シャワーからお湯が出るまでに出てくる水をバケツに貯め、掃除や植木の水やりに使う	シャワーからお湯が出るまでに出てくる水を使って掃除を済ませ次の人が気持ちよく使えるようにする
電気	       	休日には図書館などの公共施設を利用し、家の電気を使わないように外出する	電気パトロールをして、無駄についている電気を発見次第すぐに消す
ゴミ捨て	     	不要なものはフリマサイトに出品したり、リサイクルできるものはリサイクルしたりする	周囲から「5R」の伝道師と呼ばれるようになる

このチャレンジリストは一例であり、環境保護活動に取り組む国、地域、場所や状況によって、チャレンジする内容を変更することが可能である。このチャレンジリストを、トイレや洗面所等に貼り、取り組んでもらいたい。そして、お互いに「上級者になったんだね!」とか「さすが、仙人レベルだね!」とか、その取り組みを認め合い、拍手してあげてほしい。やる気がアップするはずだ。

しかし、このリストだけでは、自分や仲間の取り組みを確認したり、達成感を感じたりするには不十分だ。そこで、私たちは、このチャレンジリストをサポートするアイテムを考えた。

「地球よろこ部 チャレンジシート2025」

【良い点】

- ★達成した目標にマグネットを置くことで、目標達成度が一目でわかり、達成感を感じやすい!!
- ★内側から外側へ向けて難易度が上がっていくので、やりがいを感じやすい!!
- ★1日の終わりに「本日の達成度」をみんなで共有し、「また明日もがんばろうね!」と盛り上がるができる!

【問題点】

- ・学校など大人数で取り組むと、マグネットだらけになってしまう。
- ・水をあまり使わない学校や職場などには不向きである。
- ・目標が多すぎると全員がバラバラに取り組むため、一体感を感じにくく、めんどろに感じやすい。



「地球よろこ部 チャレンジシート 力を合わせて地球を救え!」

私たちは、学校や職場用に、一致団結して1つの目標に取り組めるチャレンジシートを考えた。乾燥した茶色い大地である五大陸には、それぞれ、その日の目標が書いてある。例えば、学校の場合、1日の授業が終わり、帰りの会でその日の目標を達成できたかを確認する。1人でも取り組めていたら、大陸を裏返し、乾燥した大陸から緑の大地へと変わる。さらに、取り組めた人数に応じて、動植物マグネットを置いていく。達成者がクラスの人数の10%で1マグネット、20%で2マグネット…クラス全員で10マグネットを置くことができる。達成者が多ければ多いほど、その大陸がにぎわっていき、達成感を感じやすい。



月曜日から金曜日まで取り組んだ後、1週間に置くことができたマグネットの数を集計する。集計したマグネットの数を、クラス対抗、学年対抗で競い合えば、学校全体で盛り上がること間違いなしだ。クラスみんなで互いに声をかけ合いながら、楽しく取り組み、自分たちの取り組みの成果を感じてもらいたい。



最後に

環境問題は複雑だ。調べれば調べるほど、あらゆる問題が根っここのところにつながっていて、簡単に解決できないことがわかってくる。だからこそ、環境に関する正しい知識を持って、地球全体の人たちが当事者意識を持ち、協力して楽しく取り組む必要がある。

私は小学生から環境保護活動に取り組んできた。地域の川掃除やゴミ拾い、海岸清掃に出かけたり、節水や節電を呼びかけ、学校全体で取り組んだりもしてきた。清掃活動をしていると「これも捨ててよ」と、持ち帰るべきゴミを捨てていく大人たちもいた。学校で節水を呼びかけていると「自分たちだけが取り組んでも何も変わらない」と、協力をしてくれない人たちもいた。一生懸命がんばっていても、ときどき自分のしていることに自信を持てなくなるときがあって、活動をやめてしまおうかと思う時もある。世の中の技術は日々進歩しているのだから、研究者とか技術者とかにお願いするのが一番ではないか。国や企業が大きく取り組んでくれたらいいのではないかな。いろいろな問いが浮かんでは、心が苦しくなる時がある。

しかし、問題が起きるたびに何かの技術を発明していても、永遠に問題の解決にはつながらない。なぜ自然が失われていくことになっているのかと、自分たちの行動を振り返り、自分たちの行動を改めない限り、永遠に問題は起こり続ける。自分たち自身の考えや行動を変えることもなく、国や企業、一部の人たちや技術にばかり解決を頼るのはおかしいことだ。

九州電力の原口さんがおっしゃっていた。

「やらされていると感じること、楽しくないことを、人はしたくないし長続きしない。環境対策も楽しくしないと、やらされてる感があるとやらない。環境に良いことをしなくてはならないから我慢、我慢と言われてもやはり我慢の限界がある。」

そこで九州電力では、エコチャレンジや取り組みへの社内表彰、おそろいのTシャツを着るなどして、楽しく取り組んでいるということだった。私は、大人が働きながら、楽しく環境問題に取り組む姿勢にととても感動したし、うらやましく思った。

「みなさんが気づけば、意識が変わる。意識が変わると、行動が変わる。一人ひとりの行動は小さいかもしれないが、一人ひとりの行動が変わってくると、みんなの行動が変わってきて、世界が変わってくる。世界が変わってくると、未来が変わってくる。小さなことであっても、君たちが気づくことで大きく社会は変わってくるので、これからも気づいて、意識して、行動を変えて、新しい未来を、楽しい未来を築いてもらえればなと、私たちは思います。」



原口さん(九州電力)

もちろん、人々の意識を変え、行動を変えることは簡単なことではない。私たちが考えたチャレンジリストとシートは、そんな意識を変えるための第一歩だ。何かしら特別な活動を「する」必要はない。無駄な電気や水を使うことを「しない」。ゴミをポイ捨て「しない」。過剰な包装を「しない」。毎日少しの意識や行動が積み重なり、数十年後、それは大きな結果となって、世界が、未来が変わってくるだろう。アンケート調査の最後、「私たちは地球の未来を守ることができるだろうか」という質問に90%が「守れる」と答えた。持続可能な社会を目指そうとしているはずの活動自体が、持続可能ではないという現実につづかってきた私だが、このように信じている仲間たちの協力に支えられてきた。私はみんなの「守れる」を信じたい。

私たちはこれからも「なぜ?」「どうして?」と、いろいろな問いにぶつかるだろう。しかし、この問いこそが「気づき」であり、私たちが真剣に取り組んでいる証拠だ。世の中のことをおかしいと思うことがあったら、まずは「なぜ?」と問いかけてみる。学問とは「問うことを学ぶ」ということだ。まずは問いかけてみよう。そして、気づき、学び、行動しよう。私たちの未来のために。地球の未来のために。

【参考資料】

世界や日本の大気汚染に関する対策と取り組み <https://gurilabo.igrid.co.jp/article/2432/>

家庭から出るごみの分け方・出し方 - 長崎市 <https://www.city.nagasaki.lg.jp/page/3432.html>